

令和二年度

庄内地区

子どもの声を聞く会

作文集

地域のために自分にできること

庄内中学校 二年

久保 慎之介

僕が住むこの庄内の町は、自然が豊かで、
たくさん魅力がある素晴らしい町です。

その自然、魅力を守り、庄内のもっと良いと
ころを引き出すためにも、人と人との交流
をする、伝統・歴史を受け継ぐの二つについ
て意見を述べていこうと思います。

まず、二つ目は人と人との交流についてです。今、庄内では、
敬老の日や十五夜の日などに、高齢者の方と子どもが触れ合う
機会があります。しかし、これらの行事はその地域の児童生徒、
その家族、そして高齢者だけを対象とした行事であって、地域



全員が参加できるようなものではありません。だから、地域全
員が参加でき、かつ小さい子どもでも参加できるように、めん
こやカルタなど昔のゲーム・遊びを中心としたイベントを取り
入れても良いのではないかと思います。そうすることにより、
地域全体での親睦も深まり、協調性も養われ、さらに昔の遊び
についても知ることができ、とても良い機会になるのではな
いかと思います。また、高齢の方と子どもとの意見交換を
行う場を設けても良いと思います。やはり、年齢の幅が広いと
意見や考え方にも違いがでると思います。そういった中で意見
交換をすることにより、物事への考え方の視野も広がり、様々
な問題に対する意識も変わってくると思います。

二つ目は、伝統・歴史を受け継ぐということについてです。
庄内には、熊襲踊りや南洲太鼓、夫婦踊り、水道音頭などの民
俗芸能や、関之尾の滝、平田かくれ念仏洞などの伝統・歴史が
多く残っています。この伝統・歴史は、長い時間が生み出す迫
力や美しさ、昔の歴史や戦争の背景などたくさんを感じ
させてくれます。しかし、最近では、指導者の減少や高齢化、少
子化などにより民俗芸能の活気が段々となくなっており、この
まま数十年後までこの伝統を受け継いでいけるのかが大きな問
題になっていると思います。数十年後までこの伝統・歴史を受
け継ぐためには、まずこの民俗芸能というものを地域全員に知
ってもらふ必要があると思います。そのためには、学校の行事
だけでなく、地域あらゆるところで披露し、地域全員に知って

もらうことが伝統・歴史の継承に重要なことだと思えます。また、若い世代にこの伝統・歴史を知ってもらうために、他の学校との交流を行う披露の場を設けるのもよいのではないかと思います。そうすることにより、自分たちの伝統・歴史を知ってもらうと同時に、他の地区の伝統も知ることができる良い機会になると思います。こういった伝統や歴史を後世に受け継ぐのも僕たち若者の役目だと思うので何十年、何百年先も平和な庄内でいられるように、伝統・歴史をしっかりと後世に受け継いでいこうと思います。

今はコロナウィルスの影響でたくさんの方が制限され、生きづらい毎日だと思います。しかし、このコロナウィルスを乗り越えてこそ、本当の素晴らしい庄内であり、このウィルスこそが地域全員の団結力を試すチャンスだと思っています。地域全員でコロナウィルスに打ち勝ってよりよい庄内の町へとつなげていきましょう。



庄内のSDGsとは

庄内中学校 一年

多田 康士朗

ぼくが庄内に生まれて、もう十三年経ちました。庄内の良いところや、地域の一員として何ができるかを考えた時に、授業で

習ったSDGsを思い出し、もっと知りた

いと考えていました。そのような時に、元旦の中高生新聞に、気になっていたSDGsについてとても詳しく書かれています。

SDGsとは、持続可能な開発目標といえます。「ずっとこの地球で生きていけるようにみんなが幸せでより良い社会をつくらう」という取組です。そこで、ぼくに庄内のSDGsを考えてみました。日常生活の中で感じている事に置き換えると、学校を正しく使用するのも当てはまると思います。最近、校舎のトイレが新しくなりましたが、前のトイレは五十年近くも使っていたそうです。その話を聞いた時は、なんでそんなに使うことが出来たのかと不思議に思いました。その理由は、一人一人が大切に使うことを意識して次の代まで使えるようにしていたからです。そういうわけで、新しく出来た校舎を一人一人が大切に使う意識をつける必要があると思うので、ポスターなど



を作って貼り付けたり、呼びかけなどをしたりする必要があると考えました。これが学校を正しく使用するためのSDGsだと思っています。

次に、より良い社会を創造するために、地域の一員として何ができるかを二つ考えました。一つ目はボランティアについてです。学校や地域で清掃ボランティア活動をして、きれいになった状態を見ると、とても良い気持ちになります。ボランティア活動をずっと続けていくためには、自分が自主的にボランティア活動をしていくことだと思います。そうすることで周りの多くの人がボランティア活動に参加してくれると思っています。これからもボランティア活動に取り組んでいきたいです。二つ目はあいさつについてです。庄内中には「GET J」というあいさつの合言葉があります。「GET J」とは、「元氣よく(G)、笑顔で(E)、立ち止まって(T)、自分から(J)」の略です。あいさつは、この合言葉を意識すればとても良いあいさつになり、お互いがとても気持ち良くなると思います。まずは、自分から意識して「GET J」を実践していきたいです。

生活する中で、分からないことや、違うと思った時は、少しでも改善するように考えて行動することが重要になってきます。そのような人が増えることによって庄内地区が良くなり、より良い社会になるのではないのでしょうか。

以上、ぼくが考えたSDGsです。皆さんも、まずは出来ることから取り組んでみませんか。

修学旅行で学んだこと

菓子野小学校 六年

村永あやね

私が、今回の修学旅行を一言で表すなら、「再発見」です。

今年は、コロナウイルスの影響で宮崎県内での修学旅行になってしまいました

た。しかし、修学旅行に行くことができてとてもうれしかったです。高千穂町や延岡市など、県内でもまだ行ったことのない所の見学で、訪れた場所の良い所や、昔から受け継がれている文化や最新の工場を学ぶことができました。また、私たちを温かく受け入れてくださった方々のおかげで、修学旅行が更に素晴らしいものになりました。様々な部分で細かい準備をしてくださったことに気付き、感謝の気持ちでいっぱいになりました。延岡市の城山で鐘撞きを間近に見られたこと、ホテルでの豪華でおいしい食事、友達と過ごした楽しい夜、どれも忘れられない思い出となりました。今回の経験や思い出をこれからの勉強や生活に生かしていきたいです。

この修学旅行を通して、私の住んでいる菓子野町の素晴らしいところについても改めて考えさせられました。修学旅行で訪れた場所に負けないくらい、自然が豊かで空気がおいしいところ。換



搦をしたら気持ちよく挨拶を返してくれるところ。素敵な景色がたくさんあるところ。どれも私たちの菓子野地区の自慢できるところです。

しかし、一方で、私たちが住んでいる町にこんなところがあったらいいなという気付きもありました。買い物ができる店や商店街。たくさんの人が集まることができ大きな公園。地区の人が気軽に集まれて、色々な情報を交換できる施設。贅沢かもしれませんが、修学旅行を通して、自分たちの町を更に良くするためには、このような場所が必要ではないかということも考えさせられました。

この修学旅行で、多くの「再発見」ができたことが、私の一番の学びになりました。今回の「再発見」を無駄にすることなく、私のふるさとである宮崎県や庄内地区、菓子野町を大切にしていきたいです。



ふるさとを知ろう

庄内小学校 六年

松浦 茜

みなさんは、宮崎県の魅力といえば何を思い浮かべますか。

おいしい食べ物や暖かい気候、自然豊かな景色などを想像する人もいるかと思いますが、私はそんな宮崎県が大好きです。

しかし、ある調査によると、都道府県魅力度ランキングで宮崎県は二十二位だったという記事を見ました。この記事を見て、私は少し残念な気持ちになりました。県外の人には私が大好きな宮崎県の良さが伝わっていなかったと思ったので残念な気持ちになりました。

なぜこのように思ったかというと、先日、修学旅行に行った時に、宮崎の良さを実感する機会がありました。庄内小学校では、毎年、鹿児島県に行くのですが、今年はコロナの影響で宮崎県内をまわることになりました。初め、県内をまわると聞いた時、正直ものたりないなと思ってしまいました。しかし、実際に行ってみると、それぞれの場所で宮崎県の魅力を感じることもできました。例えば、飫肥では歴史を感じる街並みや城跡、青島では青島神社や鬼の洗濯岩、綾の照葉樹林や大吊り橋など



の自然の豊かさ、食事では、宮崎牛やチキン南蛮、新鮮な魚などを味わうことができました。修学旅行を通して、実際に県内をまわり、新たな発見や体験をしたことで宮崎県の見方や考え方が変わってきました。だから、私はふるさと宮崎の良さを知ってもらうためには、まず私たちが体験を通して宮崎の良さを感じることが大切だと思います。

では、他に私たちにできることは何かないか考えてみました。まず、修学旅行で知ったことを周りの人たちに伝え、発信することにより多くの人に宮崎県の魅力を知ってもらえるはずですよ。具体的な方法として、五年生などの下級生に話をすることが考えられます。そうすることで、私たちの経験が次の学年で活かされ、修学旅行ももっと充実したものになると思います。また、庄内中で一緒になる菓子野小や乙房小の六年生と情報を共有する方法もあります。修学旅行を新聞にまとめて交換すれば、私たちが行っていない場所のことが知ることができるし、同じ場所に行っても感じることや考えることは人によって違うので、新しい発見ができます。

さらに地域に目を向けてみましょう。私は都城に住んでいます。都城は、関之尾滝、霧島の山々などの自然がとても豊かです。私たちの学校のある庄内地区で



は、南州太鼓、熊襲踊りなどの民俗芸能が代々受け継がれています。去年、私も実際南州太鼓を体験する機会がありました。ふるさと祭りで民俗芸能を披露したことで私自身も歴史を知ることができ、さらに地域の方々にも知ってもらうことができました。

このように私たちの住む宮崎県には、たくさん魅力があります。まだ私たちが気付いていない良さがあるかもしれません。だからこそ、まず地域に目を向け、自分たちで調べたり体験したりして宮崎の良いところを「知る」こと、それを「発信・伝える」ことが、私たちのふるさと宮崎の魅力をより多くの人に知ってもらえることに繋がると思います。

魅力あふれる 乙房地区

乙房小学校 六年

時任 紗楓

みなさんは、日常生活の中から、いくつ「乙房地区の魅力」を見つけることができますか。

私は、三つの魅力を見つけています。今回はこの三つの魅力について紹介します。

一つ目は、スクールガードさんです。私はスクールガードさ



んにとても感謝しています。暑い日や寒い日、雨の日も毎朝、学校まで送り届けていただいているからです。そのおかげで事故も無く、無事に六年間、登校することができました。

このスクールガードさんは、ボランティアで活動してくださっています。他の地域では、あまりないことだと聞きました。

私の班のスクールガードさんは、

「子ども達が成長する姿や、あいさつに元気をもらっています。」

と、うれしそうに話をしてくれました。これを聞いて、「自分のあいさつが、人を元気にすることができるのだ」と、うれしく思いました。そして、「これはスクールガードさんと、とてもいつながりになる」とも思いました。小学校を卒業した後もこれからも感謝の気持ちを忘れずにしたいと思います。

二つ目は、乙房の風景です。特に私は、せんかん山から見える霧島山が大好きです。登校時、せんかん山の坂を上りきると、最初に目にするのは霧島山です。寒い日は、山頂付近に雪が積もっているのを見て、きれいだなあと思います。山がはつきり見える日は、

「今日はいい天気になるね。」

と話します。霧島山はとってもいい形を



しています。まさに漢字の山そのものです。この美しく雄大な風景を見られるのは、私の大切な日常です。この風景は何年経ってもずっと変わらずにいてほしいです。

三つ目は、乙房を走る列車です。学校の近くを走る吉都線の列車には、昔の様式が残っています。それは何でしょう。ヒントは列車の上に電線が無いことです。みなさん気付きましたか。正解は、原動力は電気ではなく、軽油で走る。ですから、吉都線を走る列車は電車ではなく、「ディーゼル気動車」といいます。それをお父さんに聞いた時、普通の電車だと思っていたのでとてもおどろきました。

今回、改めて乙房地区にはたくさんの魅力があることに気付きました。人や環境のよさ、古きよい物を大切にしているよさ、他にも、まだまだあるたくさんの魅力を見つけていきたいです。そして、たくさんの方の魅力をこれから乙房地区に住む人に受け継いでいくので、いつまでも大切にしていきたいと思えます。

本年度「子どもの声を聞く会」が開催できず作文集になり、発表予定の児童・生徒の皆さんには申し訳ない思いでいっぱいです。しかし、掲載された作文を読ませていただきますと、どの作文も明日の庄内地区を担う児童・生徒にふさわしい内容のものばかりでした。是非、多くの皆さんに読んでいただきたいです。

最後に、本作文集に関わっていただいた皆様に感謝申し上げます。

令和三年三月発行

庄内地区青少年育成協議会
庄内地区まちづくり協議会